

第179期 株主通信

2025年4月1日
2026年3月31日



Contents	株主の皆様へ	01
	連結業績ハイライト	01
	主要連結財務データ	02
	セグメント別業績	03
	2026年3月期 経営成績と 中期経営計画の進捗状況	05
	TOPICS	08
	連結財務諸表	09
	会社の概況／株式情報	10

株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに当社グループ第179期連結事業に関しましてご報告申し上げます。

当期の当社グループを取り巻く事業環境は、国内では緩やかな回復基調が見られた一方、物価上昇や海外経済の不確実性など、依然として先行き不透明な状況が続きました。

このような環境のもと当社グループは、2028年3月期を最終年度とする中期経営計画に基づき、収益力の強化と企業価値の持続的な向上に取り組んでまいりました。その結果、事業ごとに濃淡はあるものの、ゼラチン関連事業や化粧品関連事業が堅調に推移し、全体としては増益を確保することができました。

今後につきましても、引き続き事業ポートフォリオの強化や生産性向上に取り組み、外部環境の変化に柔軟に対応しながら、持続的な成長の実現を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



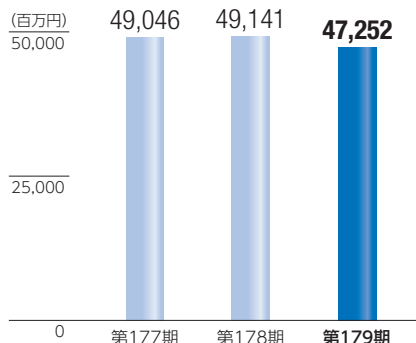
代表取締役社長

伊藤 裕子

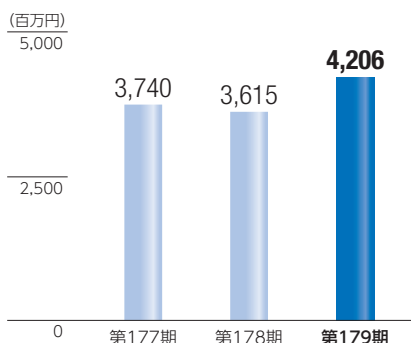
令和8年6月

連結業績ハイライト

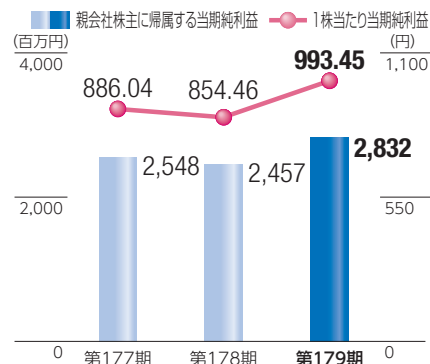
売上高



経常利益



親会社株主に帰属する当期純利益/1株当たり当期純利益

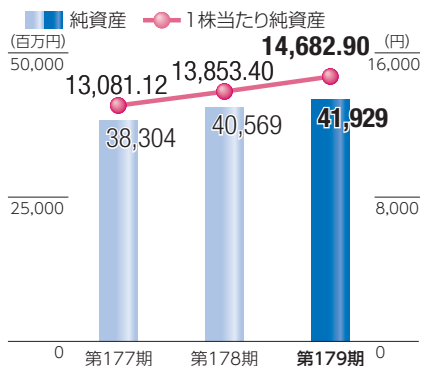


主要連結財務データ

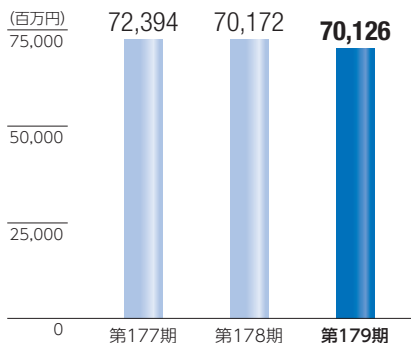
項目		期別	第177期	第178期	第179期
売上高	(百万円)		49,046	49,141	47,252
経常利益	(百万円)		3,740	3,615	4,206
親会社株主に帰属する 当期純利益	(百万円)		2,548	2,457	2,832
1株当たり	当期純利益 (円)		886.04	854.46	993.45
	純資産 (円)		13,081.12	13,853.40	14,682.90
総資産	(百万円)		72,394	70,172	70,126
純資産	(百万円)		38,304	40,569	41,929

当社グループは、連結配当性向70%を2028年3月期連結会計年度まで継続する方針です。当連結会計年度においては、1株当たり配当金696円といたします。連結配当性向は70.1%です。

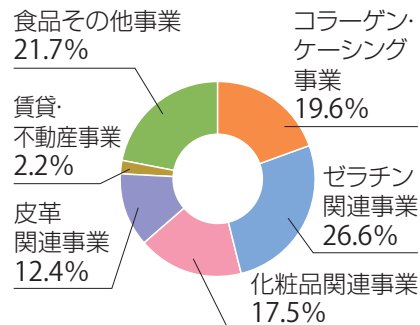
純資産 / 1株当たり純資産



総資産



セグメント別売上高(連結)



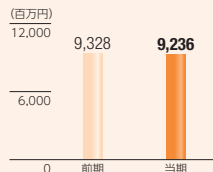
セグメント別業績

コラーゲン・ケーシング事業

売上高

9,236百万円

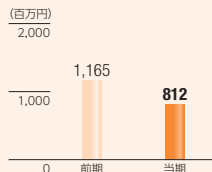
(92百万円減、
前期比 99.0%)



営業利益

812百万円

(352百万円減、
前期比 69.7%)



国内販売は、ウィンナーサイズおよび着色ケーシングが堅調に推移した一方、フランクサイズは夏場の天候の影響などにより需要が伸び悩み、苦戦しました。輸出販売は、北米向けが好調に推移した一方、アジア向けは価格競争の激化により減収となりました。

利益面では、原料費や人件費の上昇に加え、販売品目の多品種少量化や夏期の高湿多湿などによる生産効率の低下により、減益となりました。

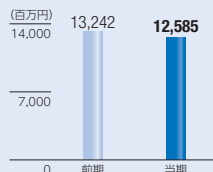


ゼラチン関連事業

売上高

12,585百万円

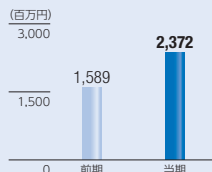
(657百万円減、
前期比 95.0%)



営業利益

2,372百万円

(782百万円増、
前期比 149.3%)



ゼラチンは、ソフトカプセル用途や食品用途が苦戦し減収となりました。ペプタイドは、国内の医薬用途が好調に推移した一方、海外では価格競争の激化により苦戦し、全体では減収となりました。

利益面では、原料価格が安定してきたことに加え、由来原料や原料供給国の見直し、生産性の改善などによりコストダウンを図り、増益となりました。

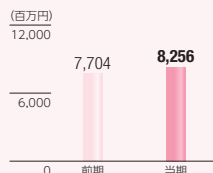


化粧品関連事業

売上高

8,256百万円

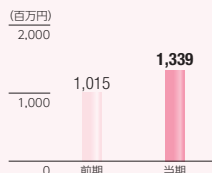
(551百万円増、
前期比 107.2%)



営業利益

1,339百万円

(324百万円増、
前期比 131.9%)



化粧品は、キャンペーンの効果もあり、堅調に推移しました。健康食品は、物価高騰による消費マインドへの影響はあったものの、「ニッピコラーゲン100」の固定客化が引き続き進んだことにより、好調に推移しました。

利益面では、化粧品および健康食品の販売がともに順調に推移したことなどにより、広告費の増加を吸収し、増収増益となりました。



株式会社ニッピコラーゲン化粧品の
通販サイトはこちら

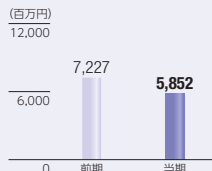


皮革関連事業

売上高

5,852百万円

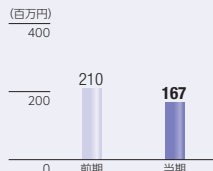
(1,374百万円減、
前期比 81.0%)



営業利益

167百万円

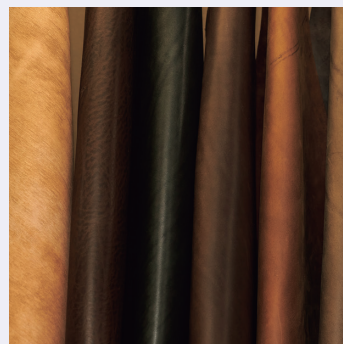
(42百万円減、
前期比 79.8%)



皮革の販売は、アパレル用途およびオンラインショップ向けが順調に推移した一方、紳士・婦人靴用革は、革靴需要の減少により苦戦しました。また、ハンドル用革の販売は、中国経済の減速による需要の低迷の影響を受け、減収減益となりました。

皮革業界は厳しい状況が続いておりますが、既存商流の維持に努めるとともに、新たな用途開発を進めてまいります。

株式会社ニッピ・フジタの企業サイトはこちら

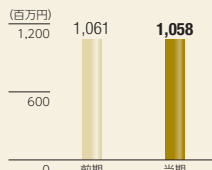


賃貸・不動産事業

売上高

1,058百万円

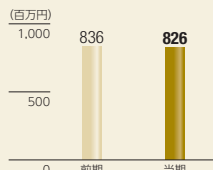
(3百万円減、
前期比 99.7%)



営業利益

826百万円

(9百万円減、
前期比 98.8%)



東京都足立区の土地賃貸事業は、大規模商業施設、保育所、フットサルコートおよび駐車場用地として有効活用を図っております。また、大阪府大阪市の土地賃貸事業は、中央区心斎橋における商業施設用地ならびに浪速区なんばにおける「なんば パークス サウス」(タイの高級ホテル、ライフスタイル型ホテルおよびオフィスビル用地)として活用しております。

なんば パークス サウスの公式サイトはこちら

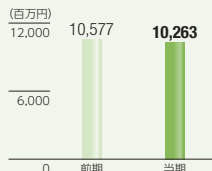


食品その他事業

売上高

10,263百万円

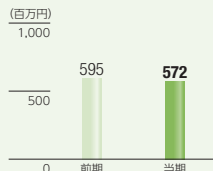
(313百万円減、
前期比 97.0%)



営業利益

572百万円

(23百万円減、
前期比 96.1%)



有機穀物は安定した需要を背景に堅調に推移しました。外食産業向けのイタリア輸入食材は、概ね堅調に推移し、販管費の増加はあったものの、利益面でも底堅く推移しました。一方、パイオ関連製品は、一部製品の販売が想定を下回ったことに加え、人件費および設備関連費用の増加もあり、減収減益となりました。

イタリア輸入食材通販サイトはこちら



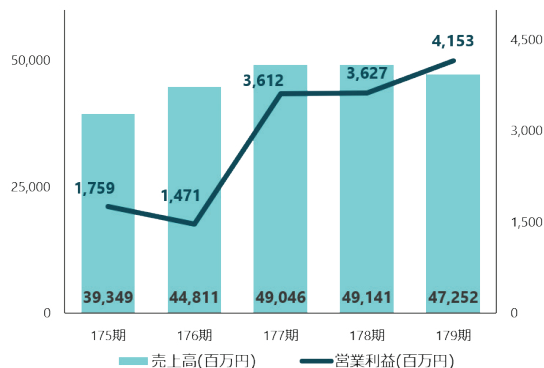
2026年3月期 経営成績と中期経営計画の進捗状況

■当期の業績について

当連結会計年度における我が国経済は、雇用・所得環境の改善が進むなか、各種政策の効果もあり、緩やかな回復基調で推移いたしました。一方で、物価上昇の継続や不安定な世界情勢、金融・資本市場の変動等の影響による下振れリスクには引き続き留意する必要があり、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループは、2026年3月期を初年度とする中期経営計画（以下「中計（26-28）」）に掲げた「企業価値向上を実現するためのROE 7%の確実な達成」を基本方針として、各種施策を推進してまいりました。当連結会計年度は、コラーゲン・ケーシング事業において多品種少量化の進展や夏季の高温多湿による生産性低下などの影響を受けたほか、皮革関連事業では中国を中心とした自動車市場低迷により販売が減少し、厳しい事業環境が続きました。

■ 売上高および営業利益の推移



一方、化粧品関連事業の販売が順調に推移したことに加え、ゼラチン関連事業において原料価格が安定してきたことや、由来原料および原料供給国の見直しによるコストダウンなどが利益増加に寄与いたしました。これらの結果、グループ全体では減収増益となりました。

■中計（26-28）の進捗状況

当社グループは、中計（26-28）を推進しております。同計画では、「目指す姿」および「基本方針」を次のとおり定めております。

目指す姿

タンパク質研究のエキスパートとして人々の生活の質の向上に貢献する

基本方針

企業価値向上を実現するためのROE 7%の確実な達成

- （1）成長事業への注力及び既存事業の収益力向上によるリターンの強化
- （2）新たな資本政策の実施
- （3）中計を確実に実行するコーポレートガバナンス体制への進化

当連結会計年度は、その初年度として、各施策に着実に取り組んだ一年となりました。1年目の数値目標については、売上高を除き達成しており、ROE 7%につきましても当連結会計年度において達成いたしました。引き続き、収益力向上施策および資本効率を重視した経営を推進し、ROE 7%の安定的な達成に取り組むとともに、売上高の成長軌道への回復を目指してまいります。

■ 中計（26-28）の進捗状況

摘要	2025.3期 実績 (A)	2026.3期 実績 (B)	2026.3期 計画 (C)	前期比 (B/A)	2028.3期 計画 (D)
売上高 (百万円)	49,141	47,252	49,000	△3.8%	52,000
営業利益 (百万円)	3,627	4,153	3,800	+14.5%	4,300
営業利益率 (%)	7.4	8.8	7.8%	+1.4P	8.3
親会社株主 に帰属する 当期純利益 (百万円)	2,457	2,832	2,600	+15.3%	3,000
ROE (%)	6.3	7.0	—	+0.7P	7.0

■ 売上高計画未達の要因と今後の対応

今期計画を達成できなかった売上高の減少要因は以下のとおりです。各事業において課題解決に向けた取り組みを進め、売上成長軌道への回復を目指してまいります。

ゼラチン関連事業（前期比5.0%減収）



〈売上未達要因〉

- ・ 価格競争激化による輸出版売の減少
- ・ 一部の食品用途製品の販売低迷

〈今後の対応〉

- ・ 海外市場における商流の再構築
- ・ 新領域における用途開発の推進

皮革関連事業（前期比19.0%減収）



〈売上未達要因〉

- ・ 中国を中心とした自動車市場の低迷
- ・ 革靴需要の減少

〈今後の対応〉

- ・ 新製品の開発
- ・ 既存技術を応用した用途展開の推進

中計2年目となる2027年3月期の連結業績予想につきましては、各利益は今期並みを予想しております。売上高回復に向け、課題解決に取り組んでまいります。

■ 収益力向上への取り組み

当社グループは、中計（26-28）の基本方針である「成長事業への注力」および「既存事業の収益力向上」に基づき、企業価値向上に向けた各種施策を推進しております。

(1) 成長事業への注力

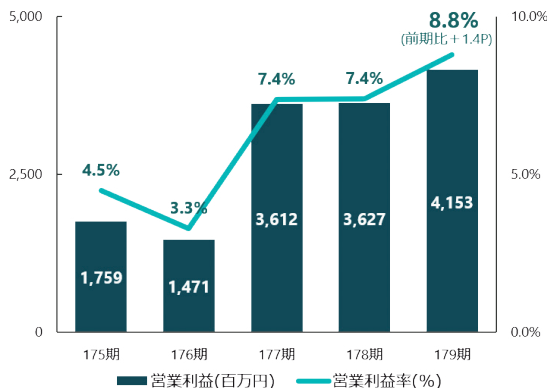
- ・ バイオ関連製品の製造・品質管理体制の強化
- ・ 再生医療用の細胞培養基材および医療機器用コラーゲン・ゼラチンの海外市場での拡販
- ・ 健康食品のチャネル開発による販路拡大
- ・ 特許技術を基盤とした新製品の開発・上市推進

(2) 既存事業の収益力向上

- ・ 原料調達ソースの多様化による供給体制の強化、品質の安定化およびコスト低減
- ・ 製造ラインの見直しによる省力化・安全性向上
- ・ 価格競争力の高いコラーゲンペプチドの新規投入

当連結会計年度においては、成長分野への投資を進めるとともに、原料調達先の見直しや生産設備の最適化など、収益基盤強化に向けた取り組みを推進いたしました。その結果、営業利益率は前期比1.4ポイント上昇し、8.8%となりました。

■ 営業利益および営業利益率の推移



■ 株主還元への取り組み

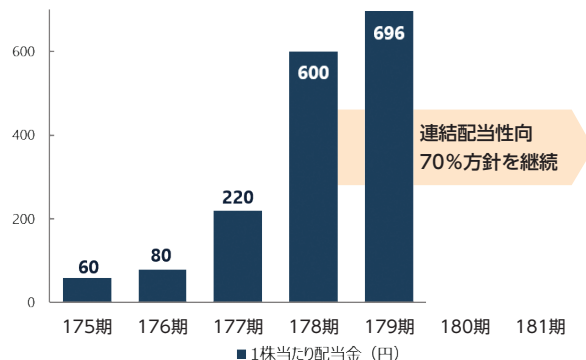
当社グループは、株主の皆様への利益還元を重要な経営課題の一つと位置づけております。2025年3月期より2028年3月期までの4年間は、連結配当性向70%を目安とした株主還元を実施する方針としております。

当期の配当金につきましては、1株当たり696円、配当総額19億48百万円（連結配当性向70.1%）いたしました。

また、株主還元の充実および資本効率向上を図るため、上限110,000株・10億円を内容とする自己株式の取得を決定し、2025年10月1日から2026年3月31日までを取得期間として、東京証券取引所における市

場買付（取引一任方式）を実施いたしました。その結果、75,600株（発行済み株式総数に対する割合は2.61%）、総額9億99百万円の自己株式を取得いたしました。

■ 1株当たり配当金額の推移



■ 持続的な企業価値向上へ向けて

当社グループを取り巻く事業環境は引き続き不透明な状況が続くものと認識しておりますが、中計（26-28）に掲げた重点施策を着実に推進し、収益力向上および成長事業の拡大に取り組んでまいります。

また、企業価値向上と持続的成長を実現するため、コーポレートガバナンスの更なる充実にも取り組んでまいります。今後予定されるコーポレートガバナンス・コード改定への対応を進めるとともに、社外取締役の複数名体制についても検討を進め、経営監督機能の強化および経営の透明性向上を図ってまいります。

当社グループは、事業環境の変化に柔軟に対応しながら、中期経営計画の着実な遂行に努めてまいります。株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

新製品・新商品のご紹介

■高精細造形を実現するコラーゲンバイオインクを開発

—高濃度・高精細を両立する独自技術—

当社バイオマトリックス研究所は、医療や創薬研究分野で活用が進む3Dバイオプリンティング分野において、コラーゲンでは困難とされてきた「高濃度化」と「高精細造形」を両立するコラーゲンバイオインクを開発いたしました。

本製品は、独自技術により10%以上の高濃度化を実現するとともに、細径ノズルによる安定した吐出・造形を可能としております。また、煩雑な温度管理を必要とせず、室温で造形できる点も特長です。

医学研究や創薬研究における三次元組織モデル構築への活用に加え、将来的には医療用マテリアル分野への応用も期待されております。



■薬用リンクルレーザー セラムが生まれ変わって新登場

—「しわ改善」「美白※1」「肌荒れケア」を1本で—

新しくなった『薬用リンクルレーザー セラム』には、医薬部外品として美白としわ改善の効能が認められた有効成分「ナイアシンアミド」を新たに配合しております。「ナイアシンアミド」は、メラニンの生成を抑え、シミ・ソバカスを防ぐとともに、しわを改善します。顔全体のケアに加え、目もと・口もとなど気になる部分への重ねづけにもおすすめの薬用美容液です。

本商品は、当社グループの株式会社ニッピコラーゲン化粧品において、通信販売を通じてお客様へお届けしております。

※1：メラニンの生成を抑え、シミ・ソバカスを防ぐこと



連結財務諸表

連結貸借対照表（要旨）

（単位：百万円）

科 目	第178期 (2025年3月31日現在)	第179期 (2026年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	27,574	27,246
固定資産	42,596	42,878
有形固定資産	36,912	35,880
無形固定資産	209	188
投資その他の資産	5,474	6,808
繰延資産	1	0
資産合計	70,172	70,126
負債の部		
流動負債	14,692	12,968
固定負債	14,910	15,228
負債合計	29,603	28,196
純資産の部		
株主資本	29,760	29,866
その他の包括利益累計額	10,077	11,245
非支配株主持分	730	818
純資産合計	40,569	41,929
負債及び純資産合計	70,172	70,126

連結損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

科 目	第178期 (2024年4月1日から 2025年3月31日まで)	第179期 (2025年4月1日から 2026年3月31日まで)
売上高	49,141	47,252
売上原価	35,967	33,241
販売費及び一般管理費	9,546	9,856
営業利益	3,627	4,153
営業外収益	215	320
営業外費用	227	267
経常利益	3,615	4,206
特別利益	76	113
特別損失	8	439
税金等調整前当期純利益	3,683	3,879
当期純利益	2,517	2,910
親会社株主に帰属する当期純利益	2,457	2,832

連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：百万円）

科 目	第178期 (2024年4月1日から 2025年3月31日まで)	第179期 (2025年4月1日から 2026年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,652	2,994
投資活動によるキャッシュ・フロー	△815	△272
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,750	△2,834
現金及び現金同等物に係る換算差額	69	35
現金及び現金同等物の増・減(△)額	154	△75
現金及び現金同等物の期首残高	8,605	8,760
現金及び現金同等物の期末残高	8,760	8,684

会社の概況

■ 会社の概要 (2026年3月31日現在)

商号	株式会社ニッピ
設立年月日	1907年4月1日
資本金	4,404百万円
従業員数	630名(連結)
本社所在地	東京都足立区千住緑町一丁目1番1号
主な事業内容	コラーゲン・ケーシング、ゼラチン、コラーゲンペプチド、コラーゲン化粧品、バイオ関連製品、リンカー製品等の製造販売、皮革関連製品の加工販売等
主な子会社	株式会社ニッピコラーゲン化粧品 株式会社ニッピ・フジタ 大鳳商事株式会社 大倉フーズ株式会社 NIPPI COLLAGEN NA INC 日皮(上海)貿易有限公司 日皮胶原蛋白(唐山)有限公司

■ 取締役および監査役 (2026年6月26日現在)

代表取締役社長	伊藤裕子
取締役	深澤幸洋
取締役	野村聡
取締役	児玉憲明
取締役	福田秀明
取締役	宮脇幹太
取締役	東海林崇(社外)
常勤監査役	笠井正信(社外)
監査役	大倉喜彦(社外)
監査役	金井克行(社外)

株式情報 (2026年3月31日現在)

■ 大株主

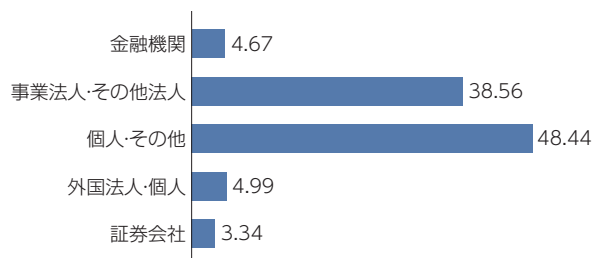
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社リーガルコーポレーション	355	12.69
大成建設株式会社	222	7.95
中央建物株式会社	116	4.15
東京建物株式会社	100	3.57
石橋拓朗	95	3.39
内藤征吾	85	3.03
株式会社みずほ銀行	69	2.49
みずほ信託銀行株式会社	60	2.14
特種東海製紙株式会社	50	1.78
株式会社ラクト・ジャパン	42	1.50

(注) 1. 株式数は、千株未満は切り捨てて表示しております。
2. 自己株式89,069株は除外しております。
3. 持株比率は自己株式を控除し、小数点第3位以下を切り捨てて表示しております。

■ 株式の状況

発行可能株式総数	11,550,000株
発行済株式の総数	2,799,931株
	(自己株式89,069株を除く)
株主数	5,167名

所有者別持株比率(%)



コーポレートサイトのご案内

当社コーポレートサイトでは、ニュースリリース、IR情報、製品・事業内容など、さまざまな情報を掲載しております。ぜひご覧ください。



株主優待制度

当社は、2026年3月31日を基準日とする株主名簿に記載された1単元（100株）以上の株式を保有されている株主様を対象として、次の優待を実施いたします。

<株主優待の内容> ニッピコラーゲン100 フィッシュタイプ
1箱(110g×3袋入り)を贈呈いたします。



7月上旬の発送を予定しております。

<株主優待制度に関するお問い合わせ先>
株式会社ニッピ 総務部
TEL：03-3888-6651
Mail：yutai@nippi-inc.co.jp

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
定時株主総会及び 期末配当金基準日	3月31日 (中間配当を行う場合は9月30日)
公告方法	電子公告 https://www.nippi-inc.co.jp/ なお、やむを得ない事由により電子公告できない場合は、日本経済新聞に掲載します。
株主名簿管理人及び 特別口座の口座 管理機関	みずほ信託銀行株式会社

各種手続き	証券口座にて株式を 管理されている 株主様	特別口座に株式を 所有されている 株主様
住所変更		
買取請求		みずほ信託銀行 株式会社 証券代行部
配当金受取方法 振込先の指定等	口座のある証券会社 にお問い合わせください。	
郵便物送付先		〒168-8507 東京都杉並区和泉 二丁目8番4号
電話照会先		0120-288-324
未払配当金の受取	みずほ信託銀行 本店・全国各支店にお問い合わせください。	

表紙写真：薬用リンクルレーザー セラム